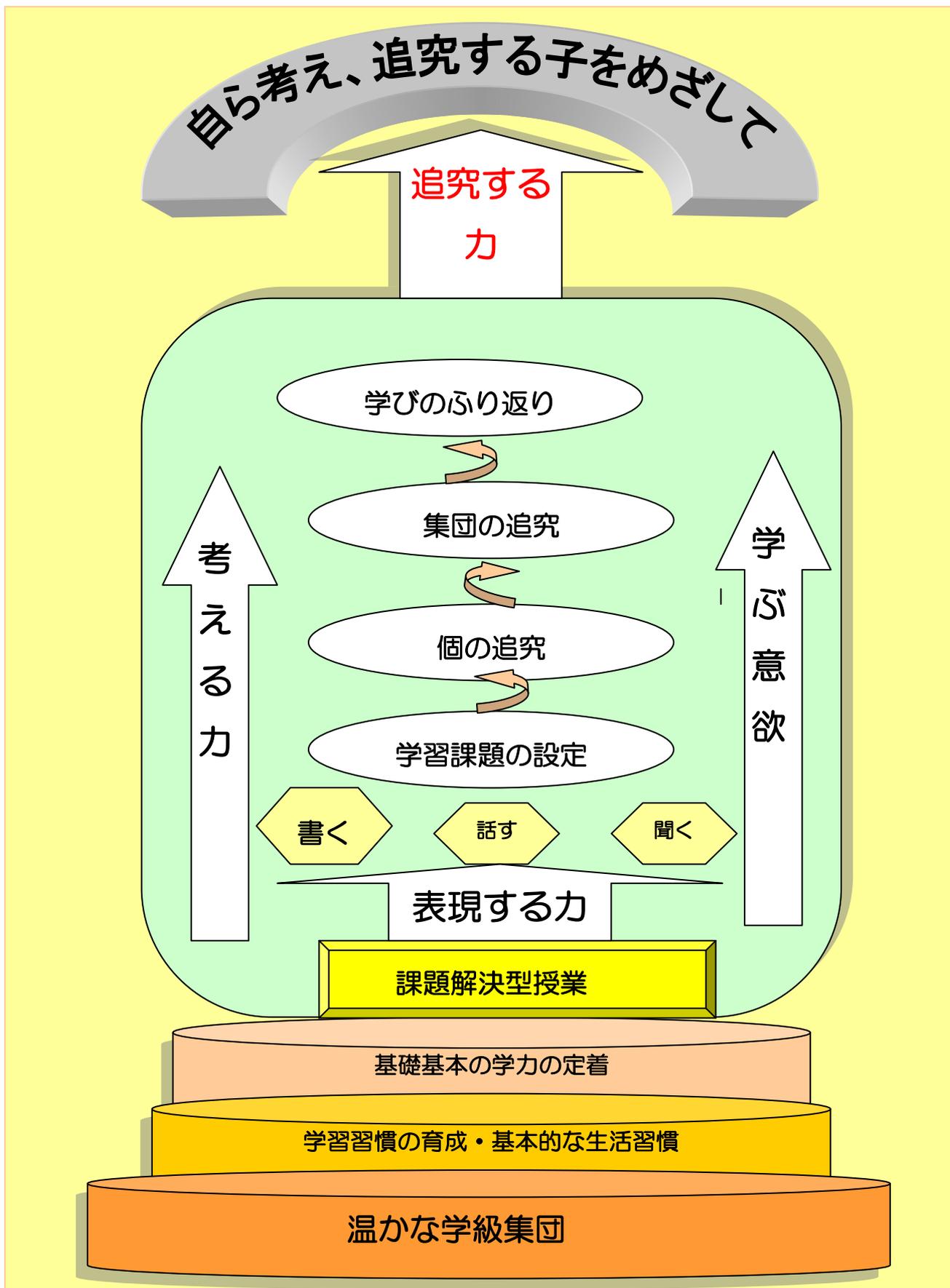


学校研究

1. 研究構想図

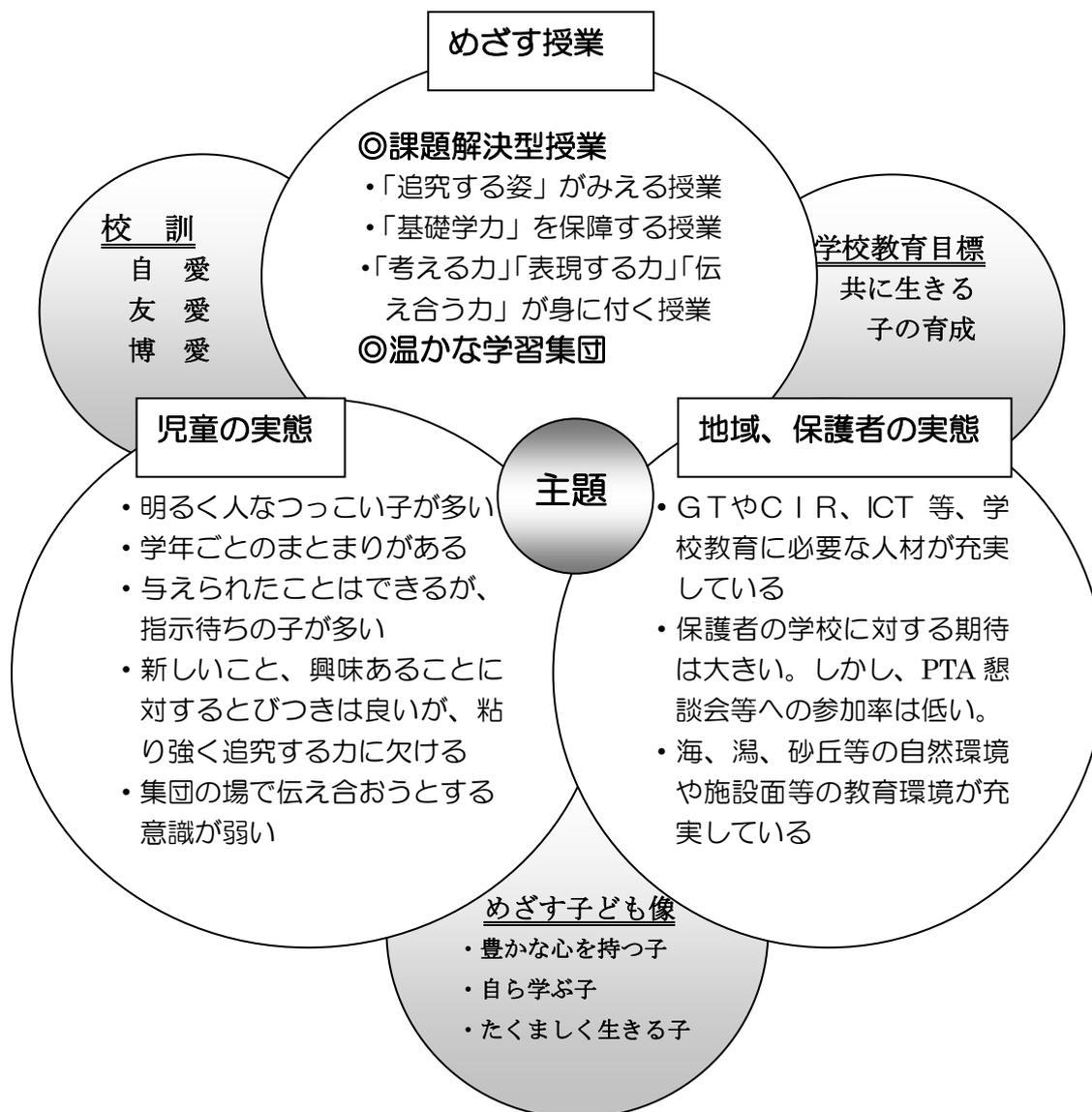


1. 校内研究計画

(1) 研究主題・副題

自ら考え、追究する子をめざして
～「書くこと」を通して考える力を育てるために～

(2) 研究主題・副題設定の理由



本校は15年前にオープンスクールをめざした特色ある学校として開校された。校舎もオープンスペースのあるめぐまれた環境になっている。平成10年新学習指導要領が発表され、総合的な学習の時間が新設された。そのねらいは、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」である。本校では、総合的な学習の推進校として、過去5年間にわたり研究に取り組んできた。

平成 10～11 年度 「学ぶ喜びを味わえる授業を求めて」
平成 12～13 年度 「学ぶ力が花ひらく総合的な学習」
平成 14 年度 「学びをきりひらく生活科・総合的な学習」

児童のより積極的かつ自主的な姿を求めて、研究主題も変わってきた。その結果、コミュニケーション力や実践力において、児童の力は着実に向上した。それは「生きる力」につながる第一歩であった。

小学校指導要領解説（総則編）の総合的な学習に関して、「各教科で身に付けられた知識や技能を相互に関連づけ、総合的に働くようにすることを目指すものといえる。（中略）各教科で得た知識や技能などが生活において総合的に働くようにすることが大切である。」と明記されている。

そこで、平成15年度から、研究の対象を総合的な学習だけではなく、すべての教科とすることにした。研究主題は「学びをきりひらく子をめざして」とし、児童が身に付けた学びを活かし、自力で追究を続け、主体的に学習や活動を進めていけるようになることを目指した。そのために、「関わり合う力」「見通しをもつ力」「追究する力」「自己評価する力」をつけたい力として位置づけ実践してきた。平成17年度からは、特につけたい力を「追究する力」に絞り、追究する姿がみえる授業づくりを中心に実践してきた。平成20年度には、「外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方に関する実践研究事業」の拠点校としての委託を受けたことで、伝え合う力とコミュニケーション能力の素地の育成に目を向け研究を進めてきた。

「自ら考え、追究する子」とは、課題を見つけ、個や集団の中で解決や達成に向けて追究し、さらに新たな課題に向かっていく姿をもとめている。「自ら考える」という点では、課題に対して一人一人が考えようとする姿が見られ、考えをもって学習に臨むようになってきた。しかし、自分の考えをもっても、明らかな根拠をもったり、筋道を立てたりして考えるという点では充分でない。そのために適切に表現したり自信をもって表出したりすることが難しいこともある。このことから、「書くこと」で考えの根拠を明らかにし、筋道立てて考える力をつけることが必要であると考えた。

そこで今年度も、課題に対して自分で考え、課題に向かって追究する子をめざすことを充実させていきたいと考えて主題を設定した。さらに副題を設定し、「書くこと」を通して考える力を育てて主題に迫りたい。

（3）研究の重点

「書くこと」を通して考える力をつける授業づくりを実践する。

一人ひとりが考えをもって追究するためには、考えを育てることが必要になる。考えることは、児童が課題を意識し、自分の見方や考え方をより確かなものに創り変えていく上で大切なものである。違いに気づいたり、比較したり、関連付けたりすることで考える力をつけることができる。さらに、「一人で考える」そして「みんなで学ぶ」ためには、いかに考えたことを適切に表現するかが大切になってくる。しかし、その考えが「ただ何となくそう思った」「たぶんそうだと思う」という考えになりがちである。自信をもって自分なりに考えをまとめ伝えるときには、「なぜそう思ったのか」についてその根拠や理由を改めて探り、それをどのように整理して伝えれば相手によく分かってもらえるか見通しをもてるようになることが必要である。そのために「書くこと」で根拠や筋道を明確に意識した思考や説明ができるようにしていく。

教師は児童が考えていく過程を大切に扱いながら、考える力をつける授業展開や支援・手立てを工夫し、授業実践していく。児童の姿から、授業を振り返り、改善しながら研究を進めていく。それを繰り返していくことで、児童の主体性が育ち、教師の授業力をつけることができると考える。

追究する姿

ねらいや課題に向かって、自分なりの思いや考えをもち、解決・達成しようと意欲的に取り組む姿

	意欲	思考	表現
個の追究	・課題がわかり、進んで取り組もうとする。	・見通しをもって、自分なりの思いや考えをもち。	・自分の思いや考えを書いたり、表したりする。
集団の追究	・課題解決のために、話を聞いたり、質問したりして、意欲的に関わり合おうとする。	・いろいろな考えがわかり、比べたりまとめたりする。	・自分の思いや考えをわかりやすく伝える。 ・友達の考えとつなげて言える。



めざす子どもの姿

低学年	自分なりの思いや考えをもち、友達に伝えることができる子
中学年	根拠をもって自分なりの思いや考えをもち、聞き合うことができる子
高学年	既習を活かしながら自分なりの思いや考えをもち、友達と比べ伝え合うことができる子

(4) 研究の方向と視点

①「考える力」をつける課題解決型授業の実践

課題設定→個の追究→集団の追究→ふり返りの4つの学習過程のある授業に、取り組んでいく。どの教科においても実践し、よりよい学習のパターンを見いだしていく。ねらいや課題に対して解決したいと思ったとき、これまでに体験したことや学習して身につけたことをもとにして、自ら考え、何とか表現する。その考えたり表現したりしたものは、誰かに分かって欲しい、伝えたいと思い、全体の中で発表したり話し合ったりする。その中で、自分の考えや思いをさらに深めていくことができる。この学習過程を大切にすることで、意欲をもって学習に取り組み、追究する力をつけることができる。と考える。

・課題の吟味をする

児童が意欲的に追究したくなるように、目標を達成する内容にふさわしく、興味・関心もてるような課題を準備する。課題ができるまでの過程を工夫する。また、児童からつくることのできるような状況を設定する。自分たちで見つけ出した課題であれば、意欲的に取り組むことができる。考えたくなるような課題、考えが多く出るような課題、ねらいにあった課題など、どんな課題が適切か吟味する。見通しがもてる課題であることも大切である。

- ・課題を明記する。
- ・課題は全員で声に出して読む。

・個の追究の場で「書くこと」の充実を図る

個の追究では、課題やねらいの解決や達成のための見通しをもたせ、解決する時間を確保し、「書くこと」で自分なりの考えや結果を見いだせるようにする。そのために、自分の考えを適切に書くことができるよう日頃から指導し、ノート指導や説明の仕方のパターン化に力を入れていく。個に応じた手だてを考えておく。自分の考えや思いをうまく表現できるような表現方法を日ごろから指導していく。

- ・ノート指導やワークシートを工夫する。
- ・既習事項が分かる教室掲示をする。
- ・基本的な説明のパターンを使って書けるようにする。

・集団追究の場で話し合いの充実を図る

集団の追究では、個々の考えをどのように広め、高めていくかが焦点となる。個々の考えを活かすために、どのようにつないでいけばよいかを試行錯誤しながら、効果的なパターンを見いだしていく。話し合いの場が充実するには、自分の考えや思いを何とか分かってもらおうと話したり、相手の考えや思いを分かろうと聞いたりすることが大切である。そのためには、まず小グループで話し合うことも有効である。場に応じて話し合う形態を工夫していく。深まりのある追究ができるためには、教師の補助発問や板書の工夫も大切である。考えをわかりやすく整理したり、考えをさらに深めるような揺さぶりをかけたりすることで追究する意欲が高まる。

- ・ペア、小グループ、全体など話し合う形態を工夫する。
- ・ねらいにせまる発問を準備しておく。
- ・授業の流れが分かる板書をする。

・学びの分かるまとめやふり返しをする

学びを振り返ることは、本時のねらいや課題について分かったことをまとめたり分からないことをはっきりしたりすること（まとめ）と自己評価や次時への課題などをふり返ること（評価）である。課題に対して、学びのふり返りの時間を確保する。まとめはその時間に学んだ内容を的確にまとめたり、表現したりする力をつける。評価では、自己評価をし、学びのよさを実感し、自ら課題をもって取り組むことにつながる。相互評価では、友達のよさを認めることによって、温かな人間関係をつくることができる。教師にとっては児童の理解度を把握することができ、ねらいに向けて支援することができる。自己チェックや授業のふり返しは視点を決めて書くことが必要である。そのためにも本時のねらいを明確にすること、教師の助言や励ましを示すことが大切になってくる。

- ・まとめやふり返りの時間5分間を確保する。
- ・励ましや認めるような朱書きをする。
- ・児童のよいノートを掲示する。

②表現する力をつけるための取り組み

表現する力について

「表現する力」は「書く力」「話す力」「聞く力」である。

- ・自分の思いや考えを分かりやすくまとめて書くことができる力「書く力」
- ・自分の思いや考えを、自分の言葉で相手に分かりやすく話すことができる力「話す力」
- ・相手の話をしっかり聞くことができる力「聞く力」

一人一人の表現する力（聞く力・話す力・書く力）をつけることで、互いの思いや考えを交流することができ、「伝え合う力」が育つと考える。

・「書く力」「話す力」「聞く力」をつけるための取り組み

低・中・高学年のめざす姿を設定し、発達段階に応じた「書く力」「話す力」「聞く力」の段階表を作り、具体的な取り組みを考え、実践していく。

書く力・話す力・聞く力の段階表

6年	自分の思いや考えの深まりや変容、次に学びたいことを書く	自分や相手の考えをまとめ、分かりやすく話す	友達の言いたいことをつかみながら、考えをまとめる
5年	課題に応じて分かったことなどを整理して書く	話の構成を考えながら、分かりやすく話す	友達の言いたいことをつかみながら聞く
4年	分かったことや大切なことをまとめて書く	互いの共通点や相違点を考えながら、話す	分からないときは、聞き返したり質問したりする
3年	自分の思いや考えを、理由をつけて書く	自分の思いや考えを、理由をつけて話す	返事をしたり、うなずいたりしながら聞く
2年	自分の思いや考え、分かったことを書く	聞き手の方を向き、最後まではっきり話す	話を最後まで聞く
1年	自分の思いや考えを書く	大きな声ではっきり話す	話し手の方を向いて聞く
	書く力	話す力	聞く力

・伝え合う学習を進めるための「取り立て指導」を実践する

「伝え合う力」を育てるために、話し方のルールやステップを生かした話し方で「取り立て指導」を行っていく。

・わたしは～だと思えます。

・ぼくもそう思えます。

(基本)

・ぼくは～と思えますが、みなさんはどうですか？

・わたしは～さんと同じです。そのわけは・・・

・わたしは～さんの考えとちょっとちがいます。そのわけは・・・

・わたしは～さんの～のところは少しちがいます。そのわけは・・・

・付け加えがあります。それは・・・

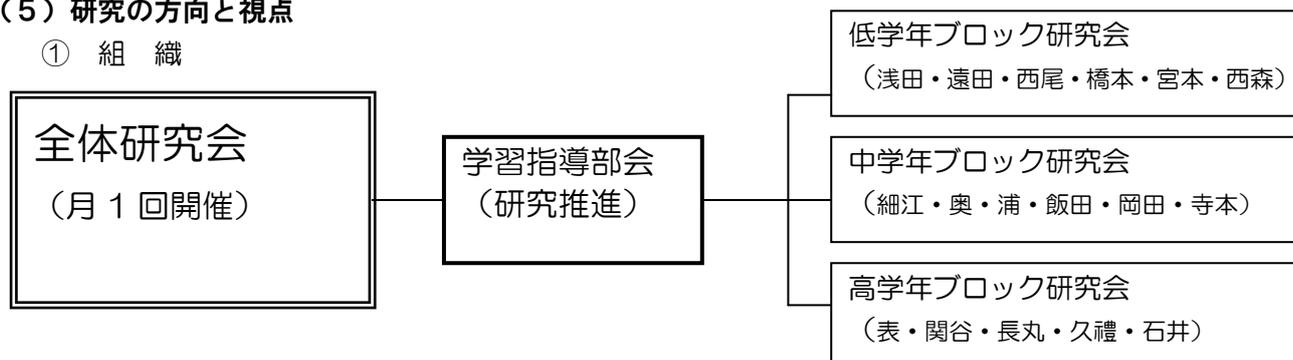
・～さんにたずねますが、どうして～なのですか？

・～さんの考えを聞かせてください。

全教科の学習の場で、常に意識し、定着を図る。毎日の学習の中で、機会あるごとに「取り立て指導」を行い、継続することが大切である。児童の心情面を取り上げ、経験を共有させることが効果的である。学年に応じた話型を教室に掲示し、常に意識させていく。

(5) 研究の方向と視点

① 組織



② 研究の進め方

- ・年間指導計画を作成し、実践を蓄積する。
- ・全員が研究授業をする。そのうち低中高学年1回ずつ全体研授業をする。
- ・事前研究会・授業整理会で視点に沿った協議を行い、研究を深める。
- ・ブロック研究会などを開き、各分野での研究を進める。

③ 活動内容

◇基礎・基本の学力を定着させるための活動

- * 児童の基礎・基本の学力についての実態が明確になるような学力実態調査を行う
 - ・基礎・基本の学力の項目を見直す。
 - ・基礎・基本の学力の調査は年2回(4月・11月 1年生は6月)行う → 漢字・計算
 - ・調査結果はクラスや学年ごとに集計し、その結果からクラスや学年ごとの取り組みを考え、実施していく。
 - ・基礎学力実態調査結果の検討をする。
 - ・追跡調査を行う。
- * 基礎・基本の学力が定着する取り組みを行う
 - ・音読指導やさよならスキル計算などの具体的な取り組みを提案し、実施する。
 - ・個別指導や補充授業を行う。
 - ・家庭学習の習慣化を図る。(家庭学習の約束のプリント作成)
- * 「書く・話す・聞く力」をつける取り組みを行う
 - ・学年を通した段階表を作り、具体的な取り組みを考え、実施する。
 - ・ノート指導の充実を図る。

◇教師の授業力をつけるための活動

- * 研究授業の推進を行う
 - ・研究授業にかかわって、授業の視点を明確にする。
 - ・授業案の検討
 - ・授業参観カードの作成
- * 授業実践が高まるような環境を整える
 - ・授業整理会後の成果と課題の報告をする。
授業の通信を発行する。(整理会の記録程度)
 - ・お互いに授業を見合えるような雰囲気づくりをする。
授業参観週間の設定
 - ・授業アンケートを学期末に行い、授業内容や姿勢を振り返る。
- * 教材開発や指導法について研修する
 - ・講師を招いた研修会を開いたり、教師の特性を生かした学習会を開いたりする。
 - ・有効な教材・教具を紹介する。

(6) 年間活動計画

会 月	学習指導部関係	研究授業等関係
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・24年度研究内容確認 ・研究組織と役割分担 ・年間計画案作成 ・研究について提案 ・主事訪問希望予定日 ・基礎学力調査の提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期学力実態調査
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・年間カリキュラム ・授業指導案提案 ・校内研修会（講師招聘） ・指導主事 A 訪問について 	<ul style="list-style-type: none"> ・提案授業（高）（表）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観週間 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業（高）（石井） ・研究授業（低）（遠田） ・研究授業（中）（細江）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の振り返り ・ブロック研究会からの報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究授業（中）（岡田） ・研究授業（低）（西尾） ・研究授業（中）（飯田） ・研究授業（高）（関谷） ・授業アンケート
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会（講師招聘） ・2学期に向けて ・基礎学力調査の結果と取り組みの報告 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価分析と対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業（低）（宮本）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観週間 ・後期学力実態調査提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業（中）（浦） ・研究授業（高）（久禮） ・研究授業（低）（橋本）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研究授業指導案検討 ・指導主事訪問Bについて ・（公開授業） ・全国学力・学習状況調査の結果と取り組みの報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事訪問B ・全体研究授業（低）（浅田） ・後期学力実態調査 ・研究授業（中）（奥） ・研究授業（高）（長丸）
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要について提案 ・2学期の振り返り ・各ブロック研究会からの報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業（低）（西森） ・研究授業（中）（寺本） ・授業アンケート
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の成果とまとめ ・研究紀要の作成 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の振り返り 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の方向性 	

(7) 教師職員研修

- ・先進校の視察を進め、新しい指導法や教材開発および児童理解を深め、本校の研究に関する方向性を明らかにする。
- ・講師から学ぶ学習会や生徒指導やコンピューターに関する研修会を開催し、教師の資質向上を図る。